

標準作型

○印・播種 △印・定植 □印・収穫

作 型	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
露 地				○	△			□				
被 覆			○	△			□					

栽培のポイント

高温性であり、野菜のうちでは強い光をもっとも好む種類で、日当たりのよい畑でないと栽培に不適である。また追肥主体の栽培がおすすめである。

畑の準備 定植 1 ヶ月前までに、苦土石灰 (10kg/a)、堆肥 (100kg/a) を全面に散布し耕起しておく。

元 肥 初期にあまり肥料が効きすぎて茎葉が繁茂しすぎると着果しにくくなるので、着果してから追肥で補うようにするほうがよい。

(1a 当たり使用量)

肥料名	CDU 燐加安 S555 号タマゴ	ようりん
元 肥	6 kg	10 kg

定 植 露地栽培では、5 月上中旬で、うね間 250 ㌢、株間 100 ㌢ぐらいを標準とする。鉢土の上に、土が 1 ㌢程度かかる深さに植えて、深植えにならないように注意する。また地温が不足する場合には、株元にポリマルチを敷いておき生育を促す。

整 枝 親つると早く伸びだした子づる 2 本だけ残し、後から出てくる子づるは取り除いておく。伸びだしたそれぞれのつるは、交差しないよう両側に向けて配置をする。

人工授粉 雌花が咲き始めたら、開花した当日の早朝から午前 9 時ごろまでに行う。授粉したら交配日がわかるようにした棒を立てると収穫期の判断がしやすい。交配後 50~55 日が収穫の目安。

摘 果 果実が鶏卵大のころ、縦長で果梗の太い果実を 1 株に 1~2 果残す。

玉直し 形や色づきを良くしてやるため行う (摘果後から 3 回程度)。最後の玉直しは、収穫前 15 日位で下を向いている部の色着きの悪そうな部分への日当たりを考える。

追 肥 果実が鶏卵大に育ってきたころに、株元から 60~70 ㌢ぐらい離れたつるの間の所々にばらまく。

肥料施用量

(1a 当たり使用量)

肥料名	化成肥料 14-14-14
追 肥	5 kg

収 穫 大玉 45~50 日、小玉 35~40 日を目安に試しどりをして判断する。果実を軽くたたくと“カンカン”という音から低い濁音へ変化し、花落ち部分を押しとやや軟らかく感じるようになれば収穫適期。